日本政策金融公庫

技術の窓　№2048　　H 27.3 .25

# 牛マイコプラズマ乳房炎の予防とまん延を防ぐためのポイント

近年、北海道の大規模酪農場を中心に細菌の一種であるマイコプラズマ（Mp）による乳房炎が増加しています。Mp 乳房炎は乳量を激減させ、治療が難く、他の牛への感染力が強いことなどから、侵入した農場に甚大な被害をもたらします。本疾病の侵入経路として、肺炎子牛や外部導入牛等からの搾乳牛への感染や呼吸器病に継発しての発生の可能性が指摘されていますが、詳しい実態は明らかにされていません。そこで、北海道立総合研究機構畜産試験場は、乳汁中の Mp の検出実態と酪農場におけるリスクの高い感染源を明らかにし、牛 Mp 乳房炎の蔓延防止策を提示しましたので紹介します。

## ☆ 技術の概要

1．北海道内の酪農場 1,538 戸のうち 11%(168 戸)において、Mp が乳汁中に一度は検出されました。検出された菌種のうち、病原性が強いとされるマイコプラズマ・ボビス、マイコプラズマ・ボビジェニタリウムおよびマイコプラズマ・カリフォルニカムの３菌種が 66%を占め、残りは菌種不明と病原性が弱いとされる菌種でした。

2．保菌牛や導入牛に比べて、牛肺炎子牛や分娩牛悪露のほうが高リスク感染源であることが示されました。

3．牛 Mp 乳房炎を防ぐためには、①肺炎の牛を扱った際は、作業着等の洗浄・消毒を行い、敷料等を他の牛群に持ち込まないこと、②分娩した牛の悪露からの感染を防ぐために、牛床を清潔に保つこと、③牛群内への Mp の侵入を監視するために、定期的なバルク乳検査を実施すること、④Mp の感染が疑われた際は、Mp の菌種を同定し、病原性が強いとされる３菌種が検出された場合、全頭検査で感染牛を特定し、隔離・治療・淘汰等の対策を実施すること、⑤Mp 感染牛は隔離牛群に収容し、最後に搾乳するとともに、搾乳器具を洗浄・消毒する等、搾乳衛生を徹底すること遵守して下さい。

**牛マイコプラズマ乳房炎の予防およびまん延防止のためのポイント**

1 肺炎発生時の感染予防
2 分娩牛の牛床管理
3 定期的なバルク乳検査の実施
4 菌種同定の実施
5 搾乳衛生対策の徹底

## ☆ 活用面での留意点

今回調査した陽性農場は乳汁からマイコプラズマが検出された農場には、乳房炎の臨床症状が認められていない農場が含まれています。なお、詳細は北海道立総合研究機構畜産試験場基盤研究部家畜衛生グループ（TEL0156-64-0615）に問い合わせ下さい。

（日本政策金融公庫農林水産事業本部　テクニカルアドバイザー　加茂幹男）